

報道関係者各位

WBC・遼クン効果が報道量を底上げ ～2009年スポーツ関連のTV報道調査～

テレビ放送の内容調査・効果測定を行うニホンモニター株式会社(本社:東京都港区浜松町、代表取締役社長:葺澤美樹)のテレビスポーツ情報研究所は、2005年～2009年のスポーツ競技種目別のテレビ報道量の推移をとりまとめました。

競技の活躍+周辺話題で報道量が増減

テレビの報道は例年、競技そのものの開催数やチーム・プレイヤーの活躍以外に、直接競技とは関係ないブーム・事件などでも報道量を押し上げています。

2009年の報道量上位7競技の5年間比較をみると、2006年のトリノ冬季オリンピック、野球の第1回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)、サッカーの世界カップが、競技中心話題として「フィギュアスケート」「プロ野球」「MLB」「サッカー」の報道量増加の要因となりました。

また2006年の斎藤祐樹投手(当時:早稲田実業高)の“ハンカチ王子”ブーム、2007年・2008年の大相撲の度重なる不祥事(朝青龍の“仮病疑惑”問題、力士急死問題、大麻所持問題など)が、直接関係ない話題としながらも、「アマ野球」「相撲」の報道量を増加させています。

2009年キーワードは「WBC連覇」「石川遼選手」

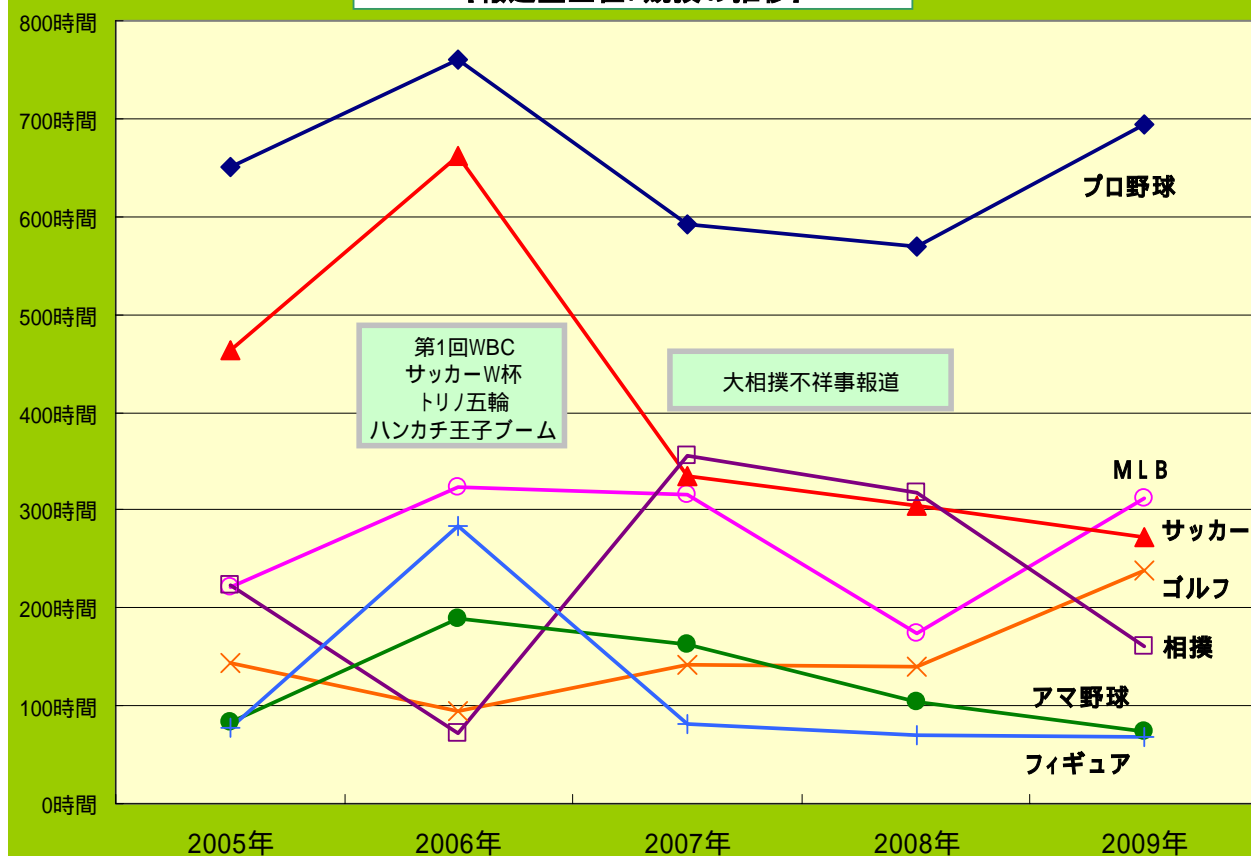
2009年の報道量を左右させたキーワードは、ズバリ“WBC連覇”“石川遼選手”といえます。

まずは野球の第2回WBC。前年の監督人事から関心が高く、メンバー発表、強化試合、第1ラウンド～第2ラウンド～決勝ラウンドと苦しみながら進み、北京オリンピックでの屈辱をも晴らし大会連覇を果たしたことで、序盤の最大のスポーツイベントとして国民が熱狂しました。開催された3月の「プロ野球」「MLB」報道量は前年の3倍以上となり、年間の報道量も大きく押し上げる結果となりました。

また前年までは人気先行の感もあったプロゴルフの石川遼選手は、2009年シーズン着実に勝利数を伸ばし、プロ2年目・18歳で最年少賞金王に輝きました。国内22試合出場で予選落ちがわずか2回と安定した活躍だったこともあり、試合での活躍や周囲のフィーバーぶりが年間4,000を超える番組で紹介されました。

2年連続となる日本プロスポーツ大賞を始め数々のアワードに輝き、まさに2009年スポーツ界の顔といえる石川選手の活躍により、「ゴルフ」報道量は前年の70%増となりました。

【報道量上位7競技の推移】



【調査概要】

調査期間：各年1月1日～12月31日放送分

対象局：NHK総合・日本テレビ・TBS・フジテレビ・テレビ朝日・テレビ東京（全て東京地区オンエア分）

今回発表のデータを含め、2009年のスポーツ関連のテレビ放送内容を集計・分析した『テレビスポーツデータ年鑑2010』を、2010年3月31日(水)に発刊いたします。

2009年のスポーツ中継データ、報道データや注目アスリート分析、スポンサーシップの効果測定など、豊富なデータを掲載した唯一無二の資料となっております。

テレビスポーツデータ年鑑 2010

(ISBNコード 978-4-9904139-2-7)

【発刊日】 2010年3月31日

【体裁】 A4判・モノクロ・全200頁

【発行/企画】 ニホンモニター株式会社・テレビスポーツ情報研究所

【定価】 20,000円(消費税別)



資料の詳細や購入申込みは弊社ホームページをご覧ください (<http://www.n-monitor.co.jp>)

<この件に関するお問合せ先>

ニホンモニター株式会社 マーケティング課・星野/本田

住所：東京都港区浜松町1-7-3 第一ビル2F

TEL:03-3578-6850 FAX:03-3578-6852 E-mail:mkt2@n-monitor.co.jp

URL: <http://www.n-monitor.co.jp>